

# 夏出し栽培に適する小ネギ品種「夏元気」

野菜育種部

## 1 背景、目的

本県は全国1位の小ネギ生産県です。小ネギは1年の中で夏期における需要が最も多く、販売単価も高くなります。その一方で、夏期の生産が不安定なため、出荷量は少なくなっています。この要因としては、①1本当たりの重量が軽く収量が少ないこと、②葉先枯れ等による規格外品の発生が多いことなどが挙げられます。

そこで、夏期でも収量が多く、葉先枯れの発生が少ないことに加え、小ネギの品質として重要な葉色が濃い特性を持つ品種「夏元気」を育成しました。

## 2 成果の内容、特徴

- 1) 「夏元気」は、葉の伸長が良い千住合柄系せんじゅあいがらけいの雄性不稔系統「CMS-H07」を種子親とし、葉色が濃い千住合柄系の固定系統「福岡ねぎ11号」を花粉親とするF<sub>1</sub>品種です（データ略）。
- 2) 夏出し栽培における「夏元気」の収量は慣行品種「FDH」より多く、「夏彦」と同程度で、1本重は両品種より重く、歩留り率は両品種より高くなります（表1）。
- 3) 夏出し栽培における「夏元気」の葉色は両品種より濃く、葉先枯れの発生は両品種より少なくなります（図1、図2、表1）。

### 3 主要なデータなど



図1 「夏元気」(右)の外観  
注) 左: 「FDH」



図2 「夏元気」(左)の葉先の外観  
注) 右: 「夏彦」に発生した葉先枯れ症

表1 夏出し栽培における生育特性

品種名	生育 日数	草丈 (cm)	収量 (kg/m <sup>2</sup> )	1本重 (g)	歩留り率 (%)	葉身径 (mm)	葉色	葉先枯れ症発生率(%)	
								自然	強制
<b>夏元気</b>	<b>66</b>	<b>46</b>	<b>1.79</b>	<b>3.8</b>	<b>69</b>	<b>5.3</b>	<b>7.9</b>	<b>0.5</b>	<b>10.7</b>
FDH	68	45	1.55	3.2	65	4.8	7.0	2.0	19.6
夏彦	66	46	1.83	3.7	64	5.3	6.3	7.2	31.4

- 注) 1. 播種日 : 平成19年5月25日、20年5月26日  
数値は2か年平均値
2. 播種密度: 条間15cm、株間1cm
3. 収量 : 葉数1.1枚~2.0枚に調製後の重量
4. 歩留り率: 調製後収量/調製前重量×100
5. 葉色 : 新生第2葉の葉色を日本植物標準色票に照合し、10(濃)1(淡)の10段階に数値化した値
6. 葉先枯れ発生率 自然: 収穫時の調製品における発生株率
7. 葉先枯れ発生率 強制: 収穫時から無かん水、ハウス密閉処理を一週間継続した多発条件下の発生株率